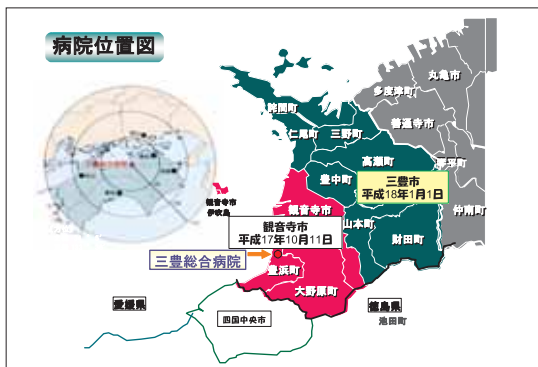


医療・保健・福祉の地域完結型総合病院の未来像

綾南町国民健康保険陶病院長 大原 昌 樹

私は、座長の廣畑先生の三豊総合病院でこの3月まで18年間、内科と地域医療部の担当として在籍しておりました。本日は、この三豊総合病院のことを中心に話をさせていただきます。後半、時間がありましたら、私がこの4月から院長として赴任した陶病院の話をさせていただきますと考えております。

〔スライド1〕



〔スライド1〕三豊総合病院は、香川県の西端、観音寺市豊浜町にある519床の国民健康保険の病院です。1市4町（観音寺市、豊浜町、大野原町、山本町、財田町）が病院組合を作り運営されています。今回、市町村合併により、これが、従来の1市9町の範囲である2市（観音寺市・三豊市、人口約137,000人）の病院組合立になる予定です。

〔スライド2〕



〔スライド2〕これが全景ですが、病院の発展の歴史を物語るように、建て増しを繰り返しています。



最近では、平成6年に保健福祉総合施設、平成8年に老人保健施設わたつみ苑、平成12年に緩和ケア病棟の入った新病棟が建てられています。

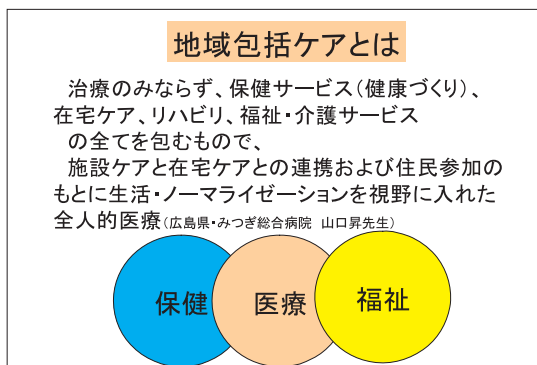
〔スライド3〕

<b>基本理念</b>	三豊総合病院 Mitoyo General Hospital
<b>M</b> edicine	高度医療から難病、救急まで世界の技術を 堅実に修得し、実践する
<b>G</b> enerality	地域社会全体に開かれた存在であり、 保健・医療・福祉の総てを統合した 地域包括ケアシステムを構築する
<b>H</b> ospitality	全職員が志を一にし、全人的視野を持ち、 優しく癒す。そして、どんな困難な事態にも 情熱を持って対処する

〔スライド3〕基本理念は、Mitoyo General Hospitalの頭文字をとって、MGHでまとめられています。

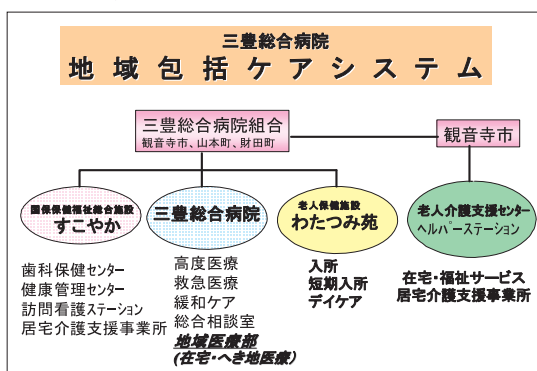
Medicine—高度医療から難病、救急まで世界の技術を堅実に修得し、実践する、Generality—地域社会全体に開かれた存在であり、保健・医療・福祉の総てを統合した地域包括ケアシステムを構築する、Hospitality—全職員が志を一にし、全人的視野を持ち、優しく癒す。そして、どんな困難な事態にも情熱を持って対処する となっています。

〔スライド4〕



〔スライド4〕この「地域包括ケア」という言葉は最近使われるようになってきましたが、元々、国保診療施設協議会の会長であったみづぎ総合病院の山口昇先生が考えられた言葉です。治療だけでなく、健康づくりなどの保健サービス、在宅ケア、リハビリ、福祉・介護サービスの全てを包むもので、住民参加のもとに生活・ノーマライゼーションを視野に入れた全人的医療と定義されています。これを、国保の病院、診療所の多くが理念として共有しています。

〔スライド5〕



〔スライド5〕三豊総合病院での地域包括ケアシステムです。

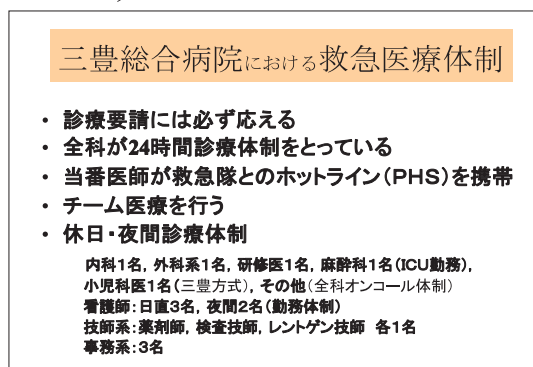
「地域医療から先進医療まで」をスローガンに、国保直営診療施設の理念である「地域包括ケアシステム」の構築を図っています。

医療においては、ほぼ全科を有し、各科が専門性を高める努力をしています。学会の研修施設や地域がん診療拠点病院に指定されています。緩和ケア病棟12床を有し、在宅医療との連携の元、患者の選択肢を増やすなど質の向上に努力しています。また、管理型の臨床研修病院と

して、毎年5名の研修医を受け入れております。

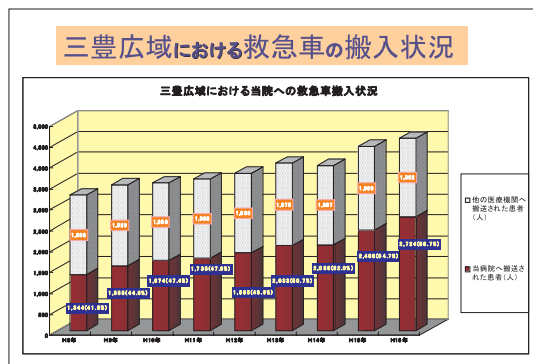
医療において在宅医療、へき地医療、保健面で健康管理センター、福祉面で、老人保健施設や老人介護支援センター、社会福祉協議会のヘルパーステーションなどを有し、連携しながら、患者・利用者の治療、ケアにあっています。それぞれについて、説明したいと思います。

〔スライド6〕



〔スライド6〕まず、救急医療ですが、診療要請には必ず応えることにしています。病院周囲に官舎やマンションなどを整備しており、多くの医師はここに住んでいます。当直医がまず診察しますが、全科が24時間診療体制をとっており、バックアップ体制ができています。救急隊とはホットラインで連絡がとれるようになっています。スライドに当直体制を示しますが、小児科は、当院小児科医3名に近隣の開業医2名、大学からの応援医師により、夜間23時までの診療体制をとっており、多くの子どもが受診しています。

〔スライド7〕



〔スライド7〕三豊広域消防の統計で数年前より50%を上回る割合で救急車が三豊総合病院に来ています。当直医の負担も大きいため、内科系は数年前より、夜間当直

を24時までとそれ以降の二つに分けるなど工夫をしながら対応しています。

〔スライド8〕



(スライド8) 次に、へき地医療の支援ですが、現在、2ヵ所の無医地区へのへき地巡回診療、町立の国保診療所への応援医師の派遣を行っています。私は、この大野原町のへき地巡回診療が始まった時に自治医大出身ということで赴任しましたが、その人だけが行くのではなく、病院全体で取り組んでおり、ニーズに合わせていろいろな科が協力し関わっている点は特筆できると思います。

〔スライド9〕



(スライド9) これが、田野々地区の診察風景です。約250人の人口の地区ですが、集会所横の建物で診療をしています。交通手段のない高齢者を中心に診ています。

(スライド10) この伊吹診療所への巡回診療は、医師が高齢でやめられたことにより、今年の4月から始まったものです。いりこの漁が盛んな島で人口は900人ほどです。週3回、11時過ぎの定期船で医師、検査技師が移動、午後から向こうの看護師さんと診療に当たり、40~60名の診療を行っています。

〔スライド10〕

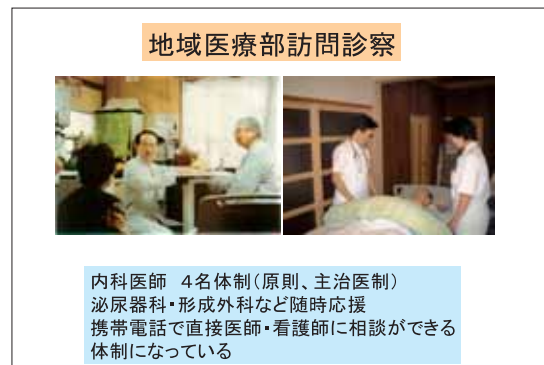


〔スライド11〕



(スライド11) 次に、財田診療所の支援です。ここは、平成12年に建てられた比較的新しい診療所です。前町長が地域包括ケアシステムの理念の元、建設、整備しました。ただ、内科医師が1名しかおらず、整形外科の診療や往診・学会等の際に三豊総合病院の医師を派遣しています。

〔スライド12〕



(スライド12) 訪問診療ですが、私が三豊総合病院で最も力を入れていた分野です。昭和61年から開始、内科医師4名体制で、原則主治医制としています。バルーンカ

テーテルのトラブルがあれば泌尿器科、褥創で困った時は形成外科など各科から随時応援をしてもらっていました。携帯電話で直接医師・看護師に相談ができる体制にしており、患者、家族がなるべく不安が少なく、在宅で過ごせるように努力していました。

〔スライド13〕



（スライド13）在宅人工呼吸、在宅IVH、在宅ポータブルレントゲン、超音波検査など在宅の医療機器も活用しています。

〔スライド14〕

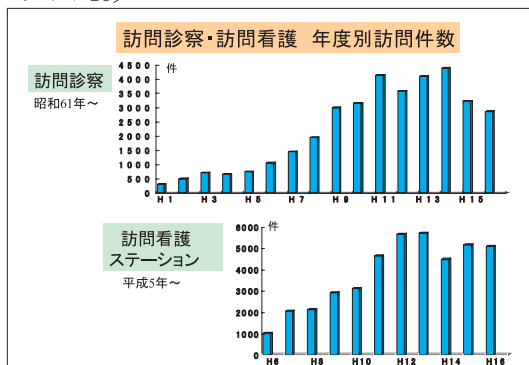


（スライド14）訪問看護は、昭和58年から始めていましたが、平成5年に訪問看護ステーションができ、現在、スタッフも6名で活動しています。

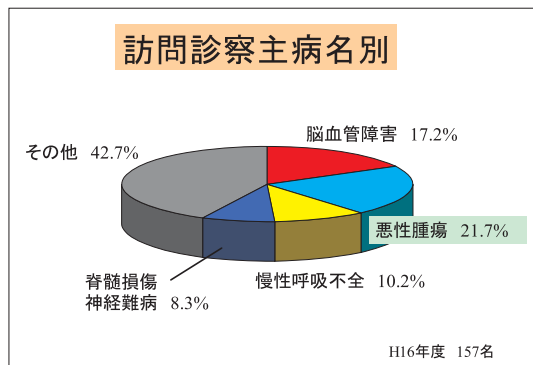
（スライド15）これは、年度別の訪問件数です。変動はありますが、医師の訪問が年間3,000件、訪問看護ステーションが5,000件程度で推移しています。

（スライド16）疾患別の分類ですが、特徴的なのは、病院に悪性腫瘍患者が多いことを背景に悪性腫瘍の訪問患者が多いことです。また、開業医さんとの連携をしている方もかなりおられます。

〔スライド15〕



〔スライド16〕



〔スライド17〕



（スライド17）緩和ケア病棟ですが、新しい病棟に平成12年に建設されました。12床全て個室になっています。基準の倍近い14名の看護師を配置、ボランティアも入っていただいています。建設の背景には、この10年ほど前から院内で緩和ケアについての勉強会を行っていたことや患者からの要望がありました。この病棟での平均入院期間は、40～50日で、毎年60～70名の看取りがあります。患者・家族の満足度は極めて高く、癌患者の療養の場の選択肢を拡げ、QOLを上げた効果は大きかったと思います。

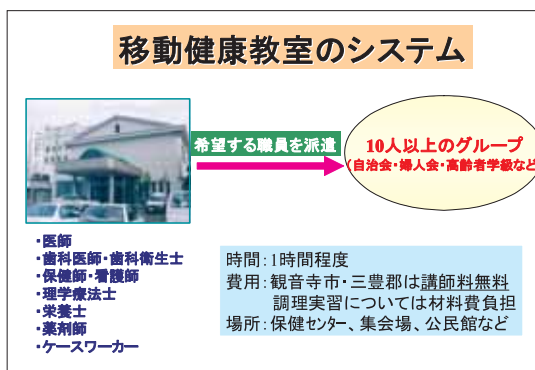
ます。訪問診療の患者の中に、病院の環境が悪いことを在宅に帰った理由にあげる方がおられました。これができて以降はそういうことはなくなりました。

〔スライド18〕



（スライド18）次に、健康教室などの保健活動です。病院では、以前より各疾患別に患者会や健康教室を行ってきました。健康管理センターでは、なるべく実習やグループワークを取り入れた教室を行っています。ただ、参加者が一定の人に限られるということがあり、平成10年頃に移動健康教室というものを始めました。

〔スライド19〕



（スライド19）この方法ですが、10人以上のグループから依頼があれば、ご希望に添う形で職員を派遣しています。自治会、婦人会、高齢者学級などから依頼があります。時間は、1時間程度、費用は観音寺市・三豊郡は無料にしています。調理実習は、材料費負担があります。

（スライド20）教室の方法ですが、講演会形式、グループワーク、実習、体験学習などいろいろな方法を組み合わせるように工夫し、単に講義だけで終わらないようにしています。

〔スライド20〕



〔スライド21〕



（スライド21）これは、年1回開催している健康フェアという行事です。平成4年から病院玄関付近の待合室を会場に行っています。毎回200～400名の方に参加いただいています。

〔スライド22〕



（スライド22）老人保健施設のわつつみ苑です。入所80名、通所40名で運営されています。また、老人介護支援センターを併設しており、介護の拠点として機能しています。